

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を共有し、日々のミーティングやカンファレンスでの話し合いを通して実践につなげている	法人の理念「共に歩む」はホームの運営や業務で困ったときに立ち戻り、「私たち本意(職員本意)」の支援になっていないかどうかを考え、振り返るための源となっている。日々のミーティング、カンファレンス等でも理念を振り返り、日々の業務に、より具体化して共有するようにしている。家族には入居時に理念を説明し、外部からの来訪者にもわかるようにホームの玄関や事務室にも掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の外出や散歩時には挨拶を交わしたり地域の行事に参加したりして交流の機会を大切にしている	地域住民の一員として、地域の行事には積極的に参加している。最近では松本地方の男の子の行事「青山様」で子どもたちがホームを訪れて利用者で交流したという。日課の散歩では近所の方々と会うことが多く、挨拶を交わしたり、立ち話をするなど、日常的に地域の方と交流することができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して情報の発信に努めている。また介護実習生の受け入れを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議で活動報告を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また町会などと予定を共有しながら、その後の計画などに反映させている	年に6回、偶数月に開催し、ホームの利用状況、活動報告や町会の行事案内、施設内研修等の内容を説明し、共有している。利用者、家族代表、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、別法人のグループホーム職員が参加して、お茶を飲みながら意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には包括支援センターに参加していただいで協力関係を築くよう取り組んでいる。また市からの派遣相談員の訪問時に利用者様の暮らしぶりなど見ていただいている	運営推進委員会の委員でもある市町村担当者とは日頃から連携を密にとりホームの実情を伝えている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、職員が対応している。月に1回、介護相談員が来訪し利用者の暮らしぶり等を見ていただき、利用者の話を聴いていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や施設内研修を通じ何が身体拘束にあたるかを理解しケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、月1回のペースで委員会を開催し、施設内研修も計画・実施している。また、申し送り等で資料の読み合わせを行い、身体拘束をすることなく、自由に暮らせるケアに取り組んでいる。ホームの周りに坂道が多くあり、安全を確保のため外部の出入りがある正面玄関には鍵をかけているが、希望があれば開錠し職員が付き添い散歩し気分転換している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を通じ虐待のないケアに取り組んでいる		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加などを通じ学ぶ機会を持っている。必要に応じ関係者等と話し合い活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取り丁寧に説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月生活の様子をお知らせしており、電話等において何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている	自分の意見や思いを表出できる方は少ないが、日々のかかりや仕草、家族の聴き取り等から把握した利用者の生活歴などを参考に思いを汲み取るようにしている。家族には利用者の生活を身近に感じていただけるように、生活の様子に写真をつけて毎月送っている。電話等も使って家族等との距離間を縮め、意見箱の設置や外部評価のアンケート等で家族の意見・要望を聴き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を言える環境作りに努めており、カンファレンスや面接などで意見や提案を聞く機会を設けている	月1回、ユニット毎のカンファレンスがあり、利用者一人ひとりの状態の把握、身体拘束適正化委員会、個人情報管理、各種勉強会、意見交換等を行いサービスの向上に繋がっている。また、法人には人事考課制度があり、年2回個人目標に沿って自己評価を行い、それを基に管理者による個人面談が行われモラルアップに繋がっている。日頃から職員同士が意見を言い合える環境づくりに努めており、カンファレンスでも意見や提案をお互いに上げ、全員で検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話を聞く機会を設けたり、資格取得に向けた支援を行うなど、向上心を持って働けるよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加するよう促したり勤務の調整を行うなど、研修に参加できる機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域にあるグループホームの運営推進会議に相互に参加し合うなど、交流や情報交換を行っている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子を見ながら、表情や会話の中から希望や想いを把握しご本人が安心して生活できるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の要望を聞きながら信頼関係を築いていくよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を確認しながら必要な支援が行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの出来ることを一緒に行ったり、お茶の時間などに話し相手になったりしながら、共に暮らす者同士としての関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時にはご本人を囲み一緒に話をしたり、外出や外泊などをご家族等に協力してもらいながら、情報を共有し共に支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へ手紙を書いていただいたり、電話で話すなど出来るだけ途切れないよう支援に努めている	利用者本人が培ってきた人間関係や馴染みの場所を途切れないようにホームとして支援に努めている。手紙やハガキが届けば、返信できるようにきっかけをつくり、利用者と共に近くのポストへ投函している。共有スペースの壁には利用者の出身地に出かけた写真等が飾られ、ホームとして積極的な支援に努めていることが窺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や外出時の組み合わせに配慮をしたり、職員が共に会話に参加するなどしたりして、関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて手紙や電話で近況を聞いたり面会に行ったりしながら支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中から希望や意向を把握すよう努め、変化を見逃さないよう日々の気付きを共有しながら、カンファレンス等でご本人の立場に立ったケアを検討している	半数以上の利用者が自分の思いを伝えることが難しい状況であるが、日々の会話や行動の中から希望や意向を把握し職員間で共有している。自己決定を促し簡単なことは選んでもらっている。その時、その瞬間を大事にして、「行ける時、できる時」に支援するようにしている。カンファレンス等でも本人の立場に立ったケアを検討し、可能な限りサポートしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人、またこれまでのサービス提供者等から話を聞くなどして把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや心身状態を注視し、記録やカンファレンス等で情報を共有しながら、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族との関わりの中から意見や想いを聞き、カンファレンス等での話し合いを通してそのときの状況に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人・家族と日々かかわる中で意見や思いを聞き、カンファレンス等で職員同士気づきや意見を出し合い、現状に即した計画になるようにしている。職員は1名～2名ほどの利用者を担当し、居室の整理整頓や必要物品の購入等、生活の細かなことにかかわっている。介護計画作成時には本人本意の計画であるかどうかを担当職員も交えて話し合っている。家族の希望は面会時や電話で伺いケアマネジャーが意見を纏めプラン作成に繋げている。入居時は1～2ヶ月の暫定プランを作成し様子を見て本プラン作成に繋げている。基本的には6ヶ月での見直しを行っているが、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の言葉や表情などより詳しくわかりやすい記録に努め、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向に沿ったサービスが提供できるよう、柔軟な支援に努めている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	徐々に地域の活動も再開されているため運営推進会議などを通じて地域の社会資源を把握し利用者様の生活に活かせるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時はかかりつけ医について丁寧に説明し、納得と同意を得られたかかりつけ医に受診できるよう支援している。主治医には状態を報告し、適切な医療が受けられるよう支援している	入居時に医療機関についての希望を伺い、ホームとして複数の医療機関と連携していることを説明している。入居前のかかりつけ医を継続している利用者は現在若干名で、受診時の支援を行っている。他の大半の利用者についてはホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、協力医療機関との間には緊急時等に医療を受けられる体制が整っている。更に、協力医療機関の訪問看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理と合わせて医師との連携が図られ24時間対応となっている。歯科については3ヶ月に1回協力歯科医の訪問がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を含め、必要に応じ気付いた点や状態の変化を伝えて相談し、情報を共有しながら適切な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に行き状態の把握に努めるとともに、退院に向けた医療関係者との話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から説明を行い話し合いを始めている。随時ご本人やご家族の意向を聞き、主治医等とも相談し方針を共有しながら、チームとして最後まで安心して暮らせるよう支援している	重度化、終末期に対する指針があり入居契約時に説明している。重度化した場合や終末期支援については、現状のホームの対応力を確認しながら話し合いを行い、チームとしての支援に取り組んでいる。直近ではお二人の方の終末期にかかわり、医師や看護師、家族等と連携し、職員全員で心を籠めて対応したという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や施設内研修などを通じ知識や技術を身に付けられるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や大雨を想定した避難訓練などを行い避難誘導や消火器の使い方などの訓練を実施している	事業所では昼夜を問わず利用者が避難できる方法を職員が身につけるため定期的に訓練を行っている。訓練は年2回、消防署の立ち合いの下、大雨を想定するなどその都度想定を変えて、避難誘導、消火訓練等を隣接する同じ法人のデイサービス、ケアハウスと合同で実施している。地域の公民館事業としてAEDの講習もあり参加している。隣接する各施設で必要な物品を法人に申告し、その3施設全体の備蓄品として一元的に管理している。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを考え尊厳を大切にしながら、一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている	ホームの運営規定や利用契約書にはプライバシー保護に関する記載があり、職員はプライバシー保護に関する研修を受け、日々のケアで実践している。同性介助を基本としているが、利用者に確認をして異性介助も行っている。排泄介助時には配慮し、周りにわからないように小声でお誘いするようにしている。複数あるトイレは必ずドアを締めプライバシーを確保するようにしている。入浴は一人が出たら次の方をお誘いするようにし、プライバシーを保っている。職員は苗字や名前に「～様」付けで利用者への声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉を工夫しながら一人ひとりに合わせ出来るだけ選択が出来るような声かけをするよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちやペースを大切にし、日課などを優先しないよう支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方には好きな服や髪型を自己決定できるようにし、職員が決める場合でもご本人の好みを考慮して決定するよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の希望を聞いたり、毎回の食事を写真に収め反応を記録するなどして一人ひとりの好み等を把握しながら食事に活かしている。また盛り付けや下ごしらえなど出来ることを一緒にしながら支援している	利用者の生活において一番の楽しみでもあり、重要な支援でもある食事については職員が利用者の好みや食べたいものを聴き、季節の食材や家族からのおすそ分け、プランターでプランター栽培をしたキュウリやトマト等を使って献立を作り、提供している。毎回の食事を写真に収めることで一人ひとりの好みを把握するようにしている。また、下ごしらえや盛り付けなどを手伝っていただき、作業を通じて利用者の持っている力を引き出すようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、一人ひとりの状態や習慣に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて毎食後口腔ケアを行っている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めながら誘導や声かけを行い、身体機能に合わせた介護用品も検討するなど、トイレでの排泄を大切にケアを行っている	利用者の持っている力を活かし、排泄の自立に向けた支援を行っている。事業所では排泄のパターンを表にして把握し、タイミングを見てトイレ誘導やパット交換を行っている。また、便通の間隔も把握し、便秘予防や食事内容等についての管理等も併せて行っている。職員はプライバシーや自尊心に配慮した排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師等と相談し、食事内容を工夫したり散歩や体操などの運動を行ったりして予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースで入浴出来るよう時間帯なども配慮し、入浴剤等も活用しながら入浴が楽しめるよう工夫している。拒否のある方には無理強いせず、時間や日を変更するなど状況に応じた支援を行っている	入浴時間はユニット毎に対応し、午前と午後に分けて支援している。できるだけ一人ひとりの希望やタイミングに合わせて実施できるようにし、拒否のある方にはその原因を探り対処している。季節ごとに「菖蒲湯」「ゆず湯」を行い、入浴剤等も使って入浴を楽しんでいただいている。一人の入浴が終わると、次の方が入るというように、プライバシーや羞恥心にも配慮して実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況を見ながら午睡や休息の時間を取るようにしたり、生活のリズムが安定するよう環境を整えるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報が常に見られるようになっている。変更があった場合には職員に周知し、状態の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話やご家族への聞き取りなどから一人ひとりの好きなことを把握し、家事や散歩、手芸など、利用者様が喜びや役割を持てるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見やドライブを兼ねたバラや紫陽花の見学など希望や状態に応じて対応している	歩行困難でも車いすや歩行器を使って、日常的に戸外へ出かけている。施設の周りの花を見たり、ベランダに出て景色を眺めて外気浴を行っている。また、外出の計画を立て、ドライブを兼ねて、桜や紫陽花、バラ等を見に出かけている。地域の公民館で行われる催し物にも積極的に参加している。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持してもらい、買い物などの際は支払いが出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて手紙や電話のやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはのれんやモビール、花などを飾り季節感を採り入れ、また温度や明るさなどはこまめに調整するよう努めている	共用のリビング兼食堂は生活感や季節感のあるものを取り入れながら、利用者がくつろいで過ごせるように設えてある。生活の多くの時間を過ごすリビング兼食堂はユニット毎に個性があり、そのスペースには利用者が自然と集まり、思い思いの時間を過ごしている。どちらのユニットからも松本平を眼下に眺めることができ、また、北アルプスも一望でき、適度な明るさと室温に調整されていた。訪問調査当日も調理の音や食欲をそそる匂いがしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫し、一人で過ごせたり仲の良い利用者様同士でくつろげるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた馴染みの家具などを置いている。また花や写真を飾るなど、ご本人が馴染みのあるものに囲まれ居心地の良い空間になるよう工夫している	廊下などの共用空間の周囲には一人ひとりの居室があり、長年使い慣れた家具や馴染の物が持ち込まれている。許可を得て拝見させていただいた居室には位牌や家族の写真等も置かれ、居心地良く、また、落ち着いて過ごせるように工夫がされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい言葉で案内を書いたり、必要な目印を付けたりして、一人ひとりが自立した生活を送れるよう支援している		